

Have a nice PHOTO!

このまちを
もっと好きになる。

vol.

50

RENEWAL!!!

八重洲・日本橋・京橋

アートに出会う
トキヨロさんぽ



見えない都市、見つめられる顔

with RICOH GR

淵上裕太



都市の循環から生まれる
不思議で異様な景色

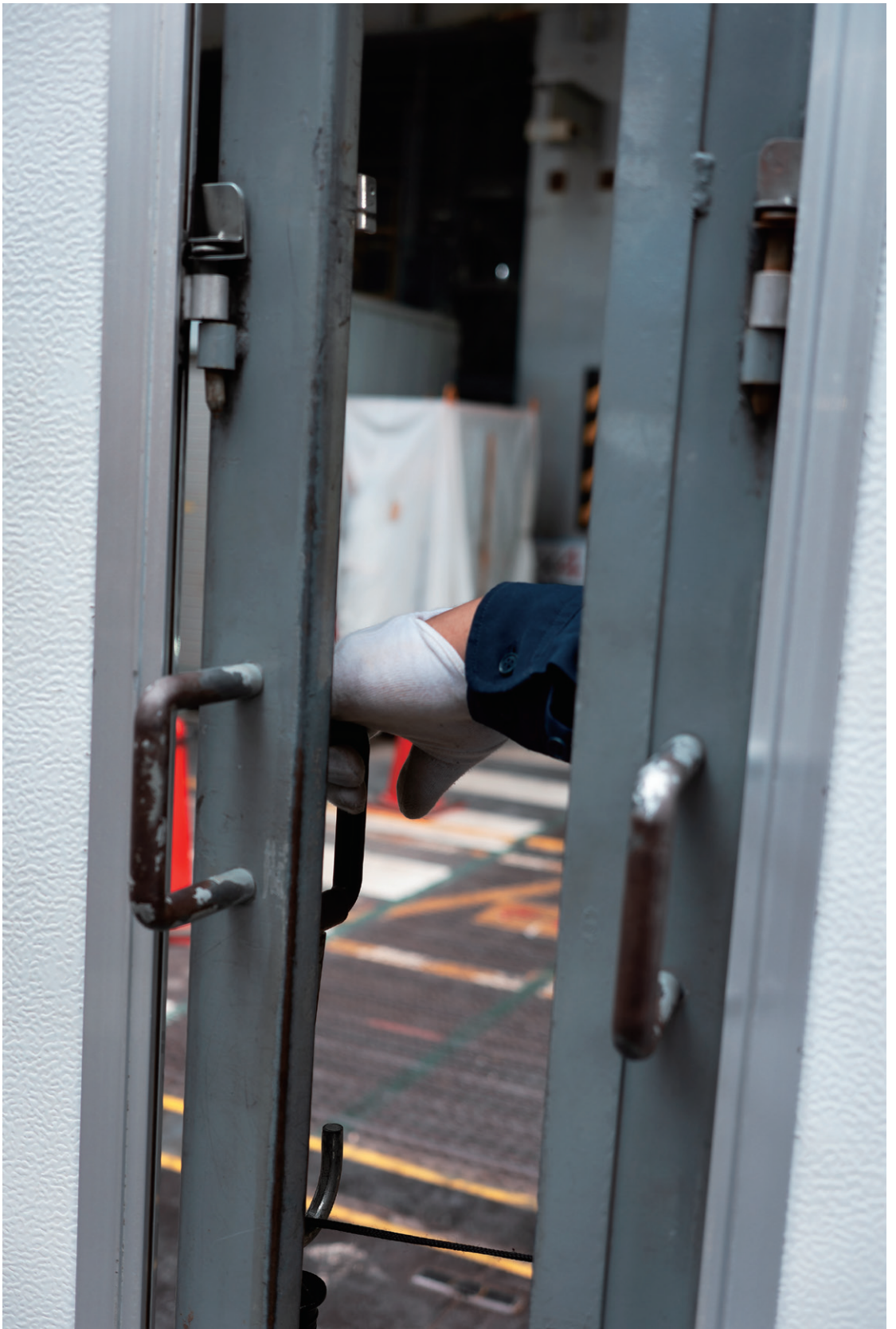
東京駅周辺の八重洲、日本橋、京橋エリアで、再開発の進行を感じながら、8月後半の2週間にわたり歩いた。実際に歩いてみると、思っていたより人は少なく、その理由はまさに都市が整備されている途中で、これから人が集まる場所をつくっている最中であることを感じた。新しいビルが建ち並んでいるのに、そこに人の姿は少ない。一方で、仮囲いの中ではたくさんの方作業員たちが必死に働き、巨大な建物をつくっている。外の静けさと仮囲いの中の活気、その対比が今のこの場所を象徴しているように思う。

僕は普段、ひとつの場所を数年かけて歩きながら撮影し、その土地のことを知る。今回は短い期間だったが、いろいろな「不思議な異様さ」に出会うことができた。仮囲いに描かれた猫も可愛くて好きだが、その後ろには工事現場がある。お店はまだ残っているのに、立ち退きエリア

だから誰も何もいない。あるいは、工事現場には存在感のある巨大な重機がいくつも立っているのに、その目の前を平然と歩く人たち。そういった都市の循環の途中で生まれてくる異様な光景がとても不思議で魅力的で、それを感じながら歩き、シャッターを押した。

今回撮影に使用したのは、「RICOH GR III」と「RICOH GR III」の2台。ポーターレートは「RICOH GR III」で撮影、都市風景は広角レンズを搭載した「RICOH GR III」のほうがしっくりきた。撮りたいと思った瞬間にすぐに撮れるし、これ1台だけで十分なくらい、どんなシーンでもしっかり記録できる。カメラが小さいので、人が声がかげやすいところも魅力的だった。今後は、GRを日常的に持ち歩き、ふと目に留まった瞬間や、見過ごされがちな日常の断片を切り取りながら、都市が移り変わるその瞬間をもっと深く追いかけていきたい。そして、この場所を歩き続け、さまざま人と出会い、新しい風景を記録し続けたい。











淵上裕太

ふちかみゆうた / 1987年、岐阜県生まれ。
2016年より上野界隈に集まる人々を撮影した「路上」シリーズを継続的に発表。上野を背景に人物を正面から捉えた写真は、被写体との間に独特の距離感を生み出す。



こんにちは。

Have a nice PHOTO!はvol.50を迎えました。

そして、本号を節目に

「八重洲・日本橋・京橋」の魅力を発信する

フリーマガジンとしてリニューアルをいたします。

私たちが大事にしてきた「読みたくなる」

誌面づくりはそのままに、東京の玄関口である

このエリアに訪れた人や働くワーカーの方々が

「このまちをもっと好きになる」ことを目指して、

新たな魅力の発見をお届けしていきます。

記念すべきリニューアル1号目は

写真家の淵上裕太と増田彩来による両A面。

このまちをどう捉え表現したのか、

それぞれの視点をぜひお楽しみください。

協力店舗さま募集中!
定期便の申込みは
info@haveanicephoto.comまで

Have a nice PHOTO!は八重洲・日本橋・京橋を中心に、飲食店やギャラリーなど全国で無料配布しています。定期便にお申し込みいただくと、最新号をご指定の住所までお届けします。お申込みは上記アドレスまで、件名に「フリーマガジン定期便」、本文に「ご希望部数・住所・担当者名」を記載の上、ご連絡くださいませ。

※10部より送付いたします。なお、個人への送付はご遠慮いただいております。

※部数によっては送料がかかる場合がございます。



Have a nice
PHOTO! vol.50

www.HaveANicePhoto.com

Publisher : テラウチマサト

General Manager : 速水惟広

Editor in Chief : 堤谷華

Editor : 竹中あゆみ、久保田真理 (ついたち)

Art Director : 新藤岳史

Printing : ジャーナル印刷

Publishing : 株式会社シー・エム・エス
〒104-0031

東京都中央区京橋3-6-6 エクスアートビル1F

Tel : 03-5524-6991 www.cmsinc.jp

Cover Photograph : 淵上裕太、増田彩来

2024年10月5日発行 (不定期刊行)

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの
無断転載を禁じます。

contents

- 2 | 見えない都市、見つめられる顔
with RICOH GR / 淵上裕太
- 9 | アートに出会うトーキョーさんぽ
- 10 | T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2024
行く前に知っておきたい今年の見どころ
- 14 | まちを歩いて感じる
トーキョーを再発見する旅
- 16 | 日本橋～八重洲エリア
- 18 | 京橋～八重洲エリア
- 21 | 古美術も現代アートも楽しめるまち
- 30 | リル・ツアー
with RICOH GR / 増田彩来

アートに出会う

トーキョーさんぽ



「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2021」開催時の写真

八重洲・日本橋・京橋。

このエリアは東京駅前を中心に大規模な再開発が計画的に行われ、見る見るうちに新しいまちの景色にアップデートされています。一方で路地を一本入ってみると、長年地元で愛されている老舗も多く、そんな新旧が入り混じるこのまちは、歩けば歩くほど味わい深いのです。

10月、芸術の秋。今年もあつという間にそんな季節がやってきました。かつて江戸城下だったこのエリアは、当時から芸術や文化にゆかりの深いまちとして歴史を刻んできました。現在も老舗の古美術店やギャラリーが並ぶ「アートなまち」として、多くの著名人や美術館関係者がこの界隈で美術品を求めやってきます。なんと言っても、今年で6回目を迎える「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2024」が今秋も開催！ 八重洲・日本橋・京橋を舞台に世界的なアーティストの作品の数々が展示され、写真を見ながらまち歩きを楽しむこともできる1か月となっています。外歩きが気持ちいい季節、アートを探索しながらまちを楽しんでみては。

T3 Go around Art



©Yamazawa Eiko 「アブストラクト青と赤」 (1960) Courtesy of The Third Gallery Aya

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2024

行く前に知っておきたい今年の見どころ

今回で6回目の開催を迎える「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」は東京駅東側エリアに点在する屋内外の会場を舞台に、さまざまな展覧会や出展作家によるトーク、写真の楽しみを体験できるワークショップなどが開催されます。展示を巡ることで、多彩な作品を知るだけでなく、都市の新たな一面を発見できる、それがこの写真祭の目的でもあります。訪れる人々にとっての楽しみになっています。今年ほどんな作品が展開されるのか、注目すべきポイントを紹介しましょう！ぜひこの記事をチェックしてから行ってみてくださいね。

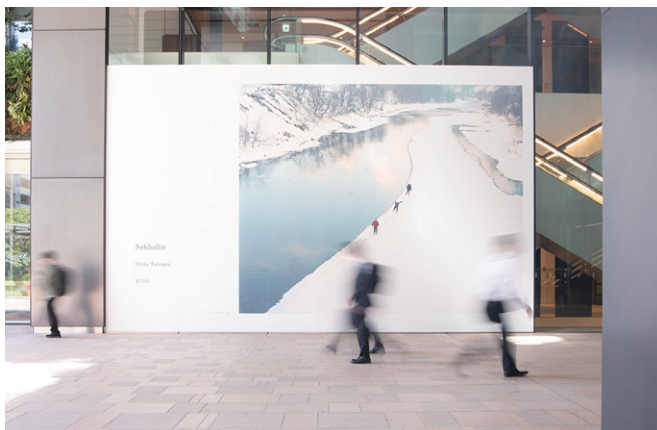
まちを舞台にした
写真の祭典が開催中！

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2024

期間：23日間
2024年10月5日(土)～27日(日)

開催エリア：八重洲、日本橋、
京橋エリアの屋内、屋外会場

入場料：無料（一部有料）



2023年開催時の展示風景

見どころ 1

こんなところにも！
まちに溶け込む作品の数々。

ビルや商業施設の外壁、工事現場の仮囲いなど、いつもはただ通り過ぎてしまう場所に突如現れる作品の数々。ふと足を止めるオフィスワーカーや不思議そうに見つめる子どもたちの姿もちらほら。カフェや和菓子屋、アパレルショップなど地域のお店でも展示が行われ、まちを回遊しながら宝探しのように展示を楽しむことができます。

見どころ 2

日本を代表する
巨匠たちの作品が一堂に集結！

今年のテーマは「New Japanese Photography: 50 years on」。50年前にMoMAで開催され、日本写真が世界的に評価されるきっかけとなった同テーマの写真展に対する、東京からの返答となります。更に50年前の東松照明、森山大道、深瀬昌久などの作品も特別展示される見どころ満載の内容です。



©Akiyama Ryoji 「スクラップ・ランド」より「映らないテレビ」

新たな写真表現の可能性。 日本が誇る工芸との貴重なコラボレーションは必見！

写真作品を用いて絨毯や陶板を制作したり、和紙などの異素材に印刷するなど、日本が誇る工芸との特別なコラボレーション作品が公開されます。サンフランシスコ近

代美術館名誉キュレーターであるサンドラ・フィリップスによる作品のセレクト、そして新たな写真表現の可能性を目にすることができます、とても貴重な機会です。



土門拳 × 山形織通／特別に染色した糸



秋山亮二 × アワガミファクトリー／特注和紙制作風景

私たちは、世界的にも評価の高い日本の「写真」を軸に、東京の八重洲・日本橋・京橋を海外から文化観光に訪れるような場所にすることを目指しています。世界一級の文化コンテンツである日本の写真と、都内有数のアート集積地である八重洲・日本橋・京橋エリア、この2つが組み合わせさり、都市を舞台にした、世界的な写真祭を東京につくることができると信じています。

毎年少しずつですがこのフェスティバルが大きくなっていくのを皆さんに見ていただけることが喜びであります。2024年度も引き続き、写真文化に貢献できる世界的な写真祭に近づけるようにクラウドファンディングに挑戦いたします。ぜひご支援をいただけますようよろしくお願い致します。



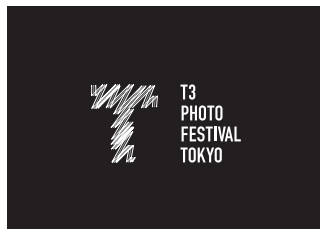
ひご支援をいただけますようよろしくお願い致します。

T3創設者 速水惟広

クラウドファンディング募集中！

都市を舞台とした写真祭「T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO」、アートフォトのマーケットとして新たにスタートする「T3 PHOTO ASIA」、そして新たな才能を育てていくプログラム「T3 NEW TALENT」。それらを通じて作家やアートワーカーたちの活動が広がり、次の世代へと文化が繋がれていく場を目指し、クラウドファンディングに挑戦しています。

ご支援いただいたお礼として、フェスティバル図録、イベントのアーカイブ配信、写真家によるポートレート撮影など、豪華なリターンが用意されています。国際的な写真祭となりうる「T3」を応援すること、それが写真文化への貢献につながるかもしれません。



専用サイトはこちら

RICOH GR × T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO

ストリートスナップといえば、このカメラ！
幅広い世代に愛される「RICOH GR」とのコラボが今年も実現！

今回の表紙写真でも掲載！



©Yuta Fuchikami
「見えない都市、
見つめられる顔」より



©Sara Masuda
「リル・ツアー」より

EXHIBITION

グルメもお買い物も！
まち歩きを楽しむ写真展

今夏、淵上裕太と増田彩来が八重洲・日本橋・京橋を「RICOH GR」で撮影。その作品が喫茶店や和菓子屋、アパレルショップなど複数の店舗で展示されています。作品を観ながら食事やお買い物を楽しんで、まち歩きを堪能してみてください。



昨年の展示風景。老舗和菓子店「桃六」は今年も展示が行われる。

PHOTO WALK

今年もT3で
「GR meet」を開催！

写真家と一緒にまち歩きスナップが楽しめる人気イベント「GR meet」が八重洲・日本橋・京橋エリアにて開催。GRを片手にフォトウォーク、そしてトークイベントや交流会も行われ、とっておきな秋の思い出になること間違いなし。



参加者限定でノベルティがもらえる。写真は昨年のサコッシュ。

TOUCH & TRY

見て触れて撮って
実機体験ブースが登場

出版社や作家が写真集を販売する人気イベント「T3 PHOTO BOOK MARCHE」の会場にGRの体験ブースが登場。気になるモデルを手にとってお試したり、実際に外で撮影が楽しめる1DAYレンタルもお見逃しなく！



他会場で開催された時の様子。便利なアクセサリもブースに並ぶ。

詳しくはT3 PHOTO FESTIVAL TOKYO公式サイトをご覧ください。



Go around

まちを歩いて感じる トキヨを再発見する旅

ビジネス街として知られる、八重洲・日本橋・京橋エリア。
まちのことを知ると、それとは異なる表情が見えてきます。

文化や歴史が息づく
新しく生まれ変わるまち

東京駅八重洲口にある、「光の帆」をデザインモチーフにした長さ約230メートルのグランルーフ（大屋根）。その圧倒されるような存在感と未来へのワクワク感に、自然と心が浮き立ってきます。そして、東京駅の東側を中心に広がる、八重洲・日本橋・京橋エリア。そこで進む再開発の様子に目を向けてみると、次々と姿を現す洗練されたデザインビルや商業施設に先と同様の感情が湧き起こって、まちを歩いていても楽しい気持ちになってきます。

このように最先端をゆくまちの中に、江戸時代から受け継がれたものづくりの文化や下町情緒が残っているのもこの地域の面白いところです。日本橋エリアは、江戸幕府が開かれるのと同時につくられた、江戸城や城下町の建設、家臣などの生活を支えるための職人・商人の居住区。その時代から今に続く老舗も多く、商人としての誇りや歴史をつないでいく責務を持って生きる人たちに会うことができます。

一方、当時から一等地だった日本橋と銀座にはさまれている京橋エ

リア。歴史をたどってみると、文化や芸術にとってもゆかりのある場所だったことが分かります。著名人が通った骨董・古美術商が今もなお存在していたり、日本のメジャーな映画会社数社がこの地にかつて本社を構えていて、現在は映画を保存・公開する国立美術館となっていたり。ここに店を構え続けてきたからこそ知り得るエピソードの数々からも、文化的な香りが漂ってきます。

歩いて人に出会って見つけた、
心が動く瞬間に反応してみる

古さと新しさが混在しながらアツプデートされるまち。お店を巡りながら散策してみると、たくさん新たな発見があるはず。歴史を重ねてきた深い味わいに舌鼓を打ったり、職人の技術を今の生活に生かしたアイテムを手にとったり。また、この地に生まれ育った店主の昔話に耳を傾けたり、この地に来て間もないけれどここに息づく伝統や文化にリスペクトを抱く人々と話をしたり。そうやって過ごした時間の中で見えてくる風景は、自身にとって特別なもの。カメラ片手に、のんびりとまちを歩いてみませんか。



Nihonbashi Yaesu



日本橋～八重洲エリア

日本橋で200年以上続く老舗から
数年前に誕生したばかりの新しいお店まで。
日本橋を大切に思う気持ちは皆同じです。

フィリー 日本橋 Philly

アメリカ・フィラデルフィアで1970年代に生まれた音楽に店主が魅せられたことから、店名をPhillyに。看板メニューは、自家製パンにビーフを挟み、チーズソースをたっぷりかけたソルフード「フィリーチーズステーキ」。その味わいは現地の人たちからも折り紙つき！



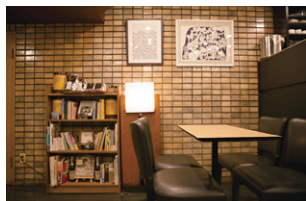
東京都中央区日本橋3-2-13 中條ビル1-2F
☎03-3527-9795
🕒18:00~23:00 (L.O.22:00)
📍土・日・祝



アート作品のような壁のほか、現地の雰囲気漂う店内。

本場アメリカの音楽とフードが楽しめる

落ち着きある空間で時間を大切に過ごす



フレッシュフルーツ、自家製生クリームを使ったサンドイッチが人気。

T3

ロータス COFFEE LOTUS

1966年に先代が創業し、現在は日本橋生まれ育ちの店主が営む喫茶店。室内は、 unnecessary デザインや機能がなく、時代を感じさせない“ミッドセンチュリーデザイン”で統一。ネルドリップでいれたオリジナルブレンドコーヒーに、人気の焼きサンドミックスやフルーツサンドを合わせて。



東京都中央区日本橋3-7-9 古山ビル1F
☎03-3271-8655
🕒月~金 8:00~14:00/
15:00~18:00、第2-4
土 12:00~17:00
📍第1-3-5土・日・祝



店内はカウンター 11席と立ち飲みテーブル4つ。缶入り日本酒も販売。



フラットに
つながる
特別な
バータイム

THE FLYING PENGUINS

夢を叶えたい人たちが業種や世代の垣根を超えて“偶発的につながる場”をコンセプトにしたバー。コネクターと呼ばれる多種多様なメンバーが日替わりで店に立ち、お客さん同士をつないでいく。こだわりのあるアルコール飲料やソフトドリンクのみの提供で、食べ物の持ち込みOK。



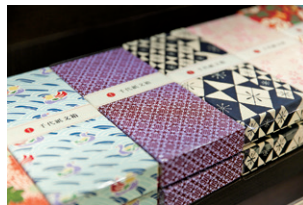
東京都中央区日本橋
2-2-18 にの八重洲
仲通りビル2F
☎03-6262-3545
Instagramにて
要確認

はいばら 榛原 日本橋本店

目を引く建物の正体は、1806年に創業して200年以上この地に店を構えてきた、紙製品などを幅広く扱う和紙舗。現在はオリジナルの図案を用いた千代紙製品やカードのほか、日本伝統の巻紙からヒントを得てできた蛇腹折りの「蛇腹便箋」といった今の暮らしに役立つ製品も販売している。



東京都中央区日本橋
2-7-1 東京日本橋タワ
ー ☎03-3272-3801
◎10:00~18:30 (土・
日17:30) ㊟祝



伝統的な紙製品の美に
触れる時間を

伝統的な図案や鮮やかな色合いのアイテムに心が踊ってしまう。

出汁がしみしみの
東京おでんで一杯



お多幸本店

創業は1923年で、日本橋に2002年に移転。秘伝の出汁は、継ぎ足して守り続けて70年以上。大根や玉子、しらたきなど定番のほか、月ごとに入れ替わるおでん種も含めて25種類を用意。人気は、おまかせの盛り合わせ(12種、8種、4種)と、ご飯に豆腐をのせて出汁をかけた「とうめし」。



東京都中央区日本橋
2-2-3 お多幸ビル
☎03-3243-8282
◎月~金 16:30~22:00
(L.O.21:15)、
土・祝 16:00~22:00
(L.O.21:00) ㊟日

ノスタルジ的な空間で食べるおでん。持ち帰り用の缶は特注品。



Kyobashi Yaesu

京橋～八重洲エリア

日本橋の隣にある京橋。
骨董品や映画好きも集まるこの地には、
文化的な風土が培われています。



京すし

モダンな建物内にあるが、実は京橋の地で代々営業してきた江戸前寿司の老舗。現在は5代目が店に立ち、赤酢を使ったシャリや前の店舗にあったけやき一枚板のカウンターなど、店の伝統を引き継いでいる。人気のランチは、2種の魚が選べるハーフ丼。ていねいな仕事ぶりに思わず感動。



東京都中央区京橋2-2-1 京橋エド
グラン1F ☎03-3281-5575
◎11:30~14:00 (L.O.13:30) /
17:30~22:00
(L.O.21:00)
◎土・日・祝



魚の種類を選べるハーフ丼。写真は鉄火とアジ。



気品のある空間で
老舗の味をいただく

江戸町火消錦絵師としても活躍する先代が描いた絵が飾られている。

気さくな店主や女将に
会のたくなる



T3

和洋料理きむら

戦前に酒屋から始まり、角打ちでつまみを出し始めたことから和食や洋食を楽しめる割烹になったそう。現在は3代目に引き継がれ、昼は揚げ物を中心とした定食を、夜はお酒に合うつまみや揚げ物のコース料理（要予約）を用意。手入れの行き届いた空間と自然なもてなしに心が落ち着く。



東京都中央区京橋
3-6-2
☎03-3561-0912
◎11:30~14:00
(L.O.13:30) /
17:30~21:00
(L.O.20:30)
◎土・日・祝

入りやすい店内。サラダ油で揚げて胃もたれしにくいとんかつ。



美しさが漂う一流の道具類。見ているだけでも眼福のひとつき。

この仕事を
道具類がずらり
するための

西勘本店

1854年に創業して以来、左官職人が使用する鑊、刃物、工具などの道具類を販売。時代に合わせた商品開発を行って、現在は包丁やハサミ、爪切りなども扱う。売り場の一角には、刃物の研ぎや鑊の柄の取り付け、西勘の刻印を行う作業場があり、道具に対する心意気が伝わってくる。



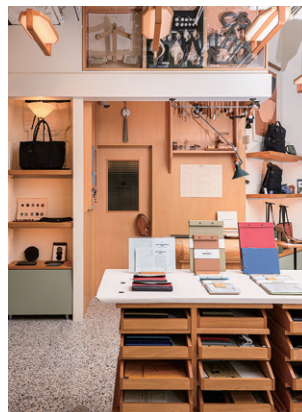
東京都中央区京橋1-1-10 西勘本店ビル1F
☎03-3281-2387
🕒月~金 9:00~18:00、土 10:00~17:00
📍日・祝

ポスタルコショップ

日本人とアメリカ人のデザイナー夫妻が生み出す文具や衣類、バッグなどを販売。2000年からアメリカ・ニューヨークで始まり、現在は東京を拠点に活動が続いている。先入観なしにデザインされた、いつもの暮らしをアップデートしてくれるアイテムをお店で手に取るだけでも刺激を受ける。



東京都中央区京橋
2-2-1 エドグラン1F
☎03-6262-6338
🕒11:00~19:00
📍なし



洗練されたアイテム
気づきをもたらす

スタジオのような店内。バッグの重さ確かめるための重りも。

100年以上変わらぬ
配合でつくり続ける



T3

桃六

創業は1869年。看板商品の「桃太郎だんご」、どら焼き、大福のほか、季節の和菓子を常時40種類ほど取りそろえる。店内には、創業時からあるけやき一枚板に桃太郎が彫られた桃六の看板や100年もの菓子鉢などが置かれ、歴史を間近に感じられる。余分な原材料を使わず、賞味は当日限り。



東京都中央区京橋
2-9-1 桃六ビル1F
☎03-3561-1746
🕒9:30~17:00
📍土・日・祝

歴史を感じる店内に、桃太郎だんごのほかさまざまな和菓子が並び。

京はし^{まつきん}満津金

京橋で印刷業を90年以上営んできた経験を生かして、テーマ型の御朱印帳や町火消の錦絵などの粋な紙製品を2016年から販売。かつてこの地に竹河岸（竹材市場）があったことを伝えるために、竹製の小物バッグや竹紙も扱う。京橋の歴史やこの地まつわる記憶を店主から聞くのも楽しい時間。



東京都中央区京橋2-6-5 ☎0120-244-202
 ⑨12:00~18:00
 ⑩日・月・祝



京すし・4代目の作品が店内に。竹河岸について話す店主。

江戸の文化や習慣を豊かに体感する



鮮度
 に
 こ
 だ
 わ
 り
 抜
 いた



アジフライは身が締まって肉厚ながら、ふわっとした食感。

京ばし松輪

京橋に店を構えて約20年。漁師や漁業協同組合から直接買うことで、水揚げされたその日に魚を加工して、1日寝かせてから調理している。魚へのこだわりを伝えるために供するランチのアジフライは、大根おろしとわさびと醤油で。夜は海の状況に合わせた内容のおまかせ料理が楽しめる。



東京都中央区京橋
 3-6-1 秋葉ビルB1F
 ☎03-5524-1280
 ⑨11:30~ 限定70食終了まで/17:00~23:00
 (土~22:00) ⑩日・祝

このまちの歴史とこれからを感じるスポット



日本橋のたもとにある歴史を感じる船着場

普段は各クルーズ会社の船が立ち寄りつつ、災害時には水上輸送に利用される日本橋船着場。江戸時代にはここを流れる日本橋川が物流を支えていた、そんな時を思い起こさせるスポット。東京都中央区日本橋1-9



緑あふれる空間から移りゆくまちを眺める

東京ミッドタウン八重洲5階にあるYAESU TERRACE。植栽が多い屋外広場は憩いの空間で、東京駅八重洲口を見わたす気持ちの良い眺めを楽しめる。開放時間は7:30~23:00。

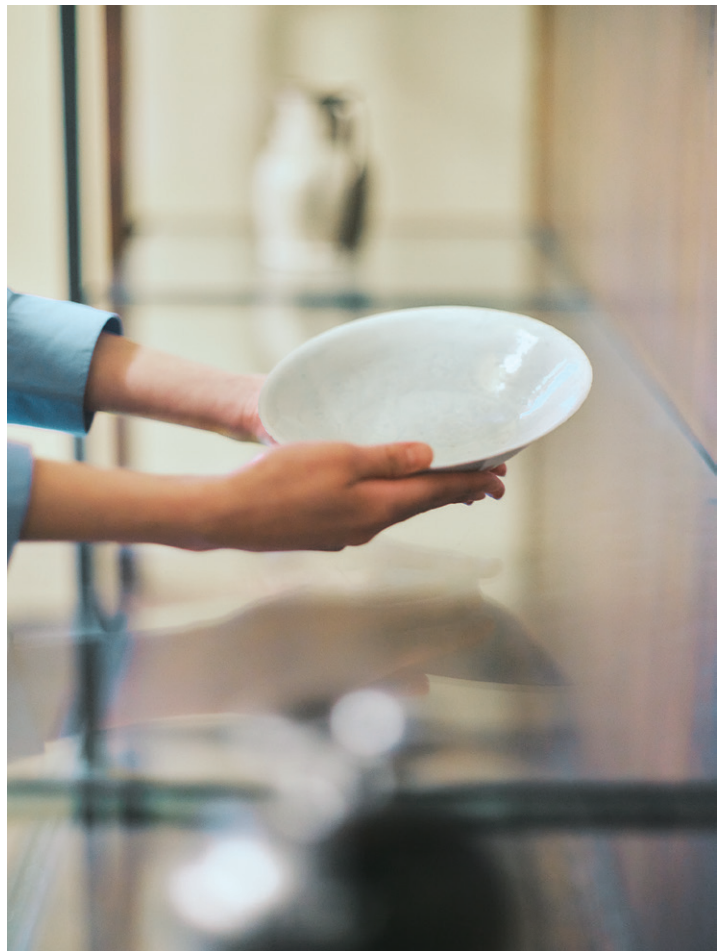
www.yaesu.tokyo-midtown.com



Art

古美術も現代アートも 楽しめるまち

視点を変えてみると、アートやアンティークが
まちにあふれていることに気が付きます。



アートのまちでもある日本橋・京橋エリアの魅力を、「東京アートアンティーク」実行委員会広報の小野瀬裕子さんに伺いました。

江戸時代、大規模に手広く商いをしていた大店おおだなが軒を連ねていた日本橋。京橋はものづくりの職人が多く、絵師の工房もありました。そんな土地柄からか、まちなそここに古美術商やギャラリーがあります。「その数はおよそ150。これだけ多くの店が集まるエリアは世界的にも珍しく、『古美術商の聖地』とも呼ばれています」と「東京アートアンティーク」実行委員会広報の小野瀬裕

子さんは語ります。その分、歴史があり芸術文化の薫りが漂うこのまちは、少し敷居が高いと感じる人もいるかもしれません。

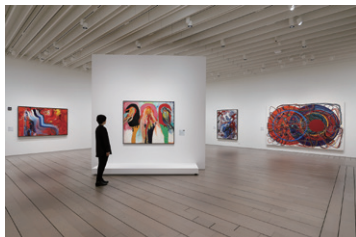
「美術は限られた人のもではなく、多くの人に広く親んでもらえる豊かなものです。古美術やアートを扱う方の多くが、『良いもの、美しいものを後世につないでいく』と考えていますので、初心者の方にもいいにその魅力を教えてくれます」。

また、企画展や展覧会を行っている時も入りやすい、と小野瀬さんは勧めます。特に、年に1回春に開催されているアートイベント「東京アートアンティーク」は、本物の美術品と出合うことができるいい機会。馴染みやすい企画展も増えるほか、陶磁器など実際は手にとれる機会も多く、重さや硬さ、薄さなどを直に体感できるのは、美術館では得られない体験です。



左／「東京アートアンティーク」には、日本橋・京橋のアート関係の店が80店ほど参加する。参加している店の目印は、掲げられた赤い旗。右／お話を伺った小野瀬さん。日本橋・京橋エリアのアートシーンに長年関わってきた。

心地よ
い空
間で
アート
体験を



アーティゾン美術館

1952年に開館し、2015年より休館していたブリヂストン美術館の伝統を受け継ぎ、館名を新たに2020年に誕生。約3,000点を誇る収蔵品は、印象派と日本近代洋画を中心に古代から現代美術までと多彩だ。「創造の体感」をコンセプトに、意欲的な展示を行っている。

東京都中央区京橋1-7-2
www.artizon.museum

現代作家の
工芸美術品を
気軽に楽しむ

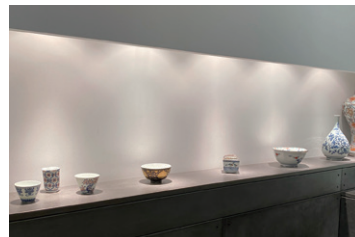


ギャラリーこちゅうきょ

東洋古美術の老舗^{こちゅうきょ}・壺中居の近現代部門として1987年に独立したギャラリー。外光を取り入れた室内には、陶芸、金属、漆、ガラス、染色などの工芸美術品が並ぶ。現役の作家との連携を大切に、後代にも永く高く評価され、愛され残される作品を厳選している。

東京都中央区日本橋3-6-9 箔屋町ビル2F
www.kochukyjo.co.jp/G.html

江戸時代の
華やかな
陶磁器の
数々



前坂晴天堂

東洋の古陶磁、特に江戸時代の鍋島、古九谷、柿右衛門、初期伊万里、古伊万里などの肥前有田磁器を専門に扱っている。日常使いできる約300年前の器に出合えることも。10月11日～15日は「～百花繚乱～古伊万里の世界展」を開催。

東京都中央区日本橋3-7-10 内藤ビル1F
www.maesaka-seitendo.com

海を越え、
時を超越、
届く服を
美しく



マインドベンダーズ クラシックス MindBenders & Classics

京橋の路地裏、古いビルの屋上にある小さな古着店。店主夫妻がフランス各地で集めた19世紀から20世紀中頃までのヴィンテージの生活着や仕事着が並ぶ。かつての持ち主たちが大切にきてきたことが伝わる衣服。それらから放たれる独特な魅力を感じてみては。

東京都中央区京橋2-6-8 仲通りビル6F
<https://shop.mindbendersandclassics.com>

美の巨人、
北大路魯山人
と出会う場



ろけい 魯卿あん

北大路魯山人が手がけた古美術の店・大雅堂があった縁の地に、2013年オープン。大藝術家であり、美に妥協を許さなかった魯山人の陶器や漆、書、絵画などの多彩な作品に出会うことができる。10月10日から26日まで、特別展「粹」大藝術家北大路魯山人展を開催。

東京都中央区京橋2-9-9 ASビルディング1F
www.kurodatoen.co.jp/rokeian

東京駅直結の
現代アートの
表現に出会う



バグ BUG

銀座で30年以上ギャラリーを運営してきたリクルートホールディングスが2023年にオープンしたアートセンター。アーティストの新しい表現や挑戦を応援する場として、現代アートの展覧会を開催。展覧会に合わせたコラボメニューがあるBUG Cafeも併設されている。

東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウ
サウスタワー1F <https://bug.art>

2つの空間で
日本の
美を堪能

映画と
文化を
つなぐ
後世に
拠点

東洋古美術の
魅力を
伝える
老舗



加島美術

昭和初期に建てられたレトロなビルにある美術商。1階は現代的、2階は和の雰囲気、それぞれの空間で近世・近代の日本画や書を中心に、洋画や工芸などの日本美術の数々を鑑賞・購入できる。2019年よりアートオークション「廻-MEGURU-」を主催している。

東京都中央区京橋3-3-2 www.kashima-arts.co.jp



国立映画アーカイブ

日本唯一の国立映画専門機関で、映画の保存・研究・公開を通して映画文化の振興を図っている。所蔵する映画フィルムのほか映画関連資料を公開しており、映画に馴染みのない方も映画の多様な魅力を楽しめる。11月24日まで映画監督・田坂具隆の回顧展を開催中。

東京都中央区京橋3-7-6 www.nfaj.go.jp



まゆやまりゅうせんどう 繭山龍泉堂

創業120周年を迎える東洋古美術の老舗。長年培ってきた審美眼で選んだ、中国や日本、韓国の青銅器や玉器、陶磁器、漆器などのクラシックな美術品に直接触れられる。国登録有形文化財の建物も必見だ。10月10日～19日は中国明時代の陶磁器や漆器の展覧会を開催。

東京都中央区京橋2-5-9 www.mayuyama.jp

アートで人とまちをつなぐ最新スポット

TODA BUILDING



TODA BUILDING
前広場のイメージ。

東京都中央区京橋1-7-1
www.todabuilding.com

2024年11月2日、京橋1丁目に誕生する超高層複合ビル・TODA BUILDING。京橋に本拠を構えて120年以上の歴史がある戸田建設が、「まちに開かれた芸術・文化拠点」として本社を生まれ変わらせた。低層階の芸術文化エリアにはミュージアム（6F）やギャラリー（3F）があり、現代的で多彩なジャンルのアートを楽しめる。開放感あふれる1Fのエントランスロビーには、新進アーティストによるパブリック・アートが展示されている。オフィスワーカーも一般の方も気軽にアートに触れることができる新スポットとして注目が集まる。

個性あふれる
現代美術の
魅力を発信



四季彩舎

技術や独創性が光る絵画や立体作品などの現代美術を中心に扱う画廊。地域とアートを結びつける現代アートのプロジェクトも行っている。個展や企画展も多く、10月4日～20日は木彫作家・平良光子の個展「罪と罰」を開催。

東京都中央区京橋2-11-9 2F
www.shikisaisha.com



アートと文化が誰にも近い街。

2024.11.2

GRAND OPEN!



© 日建設計

ラジオ番組「京橋彩区のアートな広場」

「京橋彩区のアートな広場」とは、このまちでアートに携わる様々なゲストが登場し、京橋彩区で行われる展覧会やアートイベントについて紹介しているラジオ番組。中央エフエム(84.0MHz)にて毎月第1・3火曜 7:00～8:00に放送中。



PICK UP!▶ T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO 2024の企画展「Tokyo Dialogue 2024」の制作エピソードを聞いてみよう!

第5回「Tokyo Dialogue 2024前編

—プロジェクトがたどってきた道のり—

ゲスト：速水惟広 (T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO ファウンダー)

小高美穂 (Tokyo Dialogue 2024 キュレーター)

第6回「Tokyo Dialogue 2024後編

—出展作家に聞く、写真と言葉の対話—

※10/7(月)公開

ゲスト：今井智己 (写真家)、堂園昌彦 (歌人)

小高美穂 (Tokyo Dialogue 2024 キュレーター)



Spotifyで
アーカイブ
公開中!

東京駅八重洲口から歩いて5分。
銀座・日本橋にもほど近い京橋に、
新しい街が誕生します。
美術館、文化施設、
心地よく過ごせる広場。
「京橋彩区」は、
アートと文化が誰にも近い街です。



京橋彩区
KYOBASHI SAIKU

www.kyobashi-saiku.tokyo

カメラのキタムラの年賀状は

写真映えするデザインが豊富!

有名デザイナー監修の特別な一枚



こだわりデザイン

写真がたくさん入る!



多画面タイプ



ひとまわり立つ
オシャレな年賀状!

和風〜かわいいまで種類も豊富!



定番デザイン

結婚・出産・引越用のデザイン!



報告兼用



写真が入らないイラスト年賀状もあります

1 自分好みに作って送る
写真入り年賀状の魅力

最近SNSでの新年の挨拶が増えています。手間と思いが込められた年賀状は心に響く特別な価値があります。特に写真が入った年賀状はひと目で近況が伝わるのでオススメです。お気に入りの写真を、選んだテンプレートに入れるだけでさらに映える年賀状が簡単に作れます。

また仕上がりは2種類をご用意。専門工場で作る写真にこだわった「写真キレイ仕上げ（フチなし）」、お急ぎの方にオススメの「最短1時間仕上げ（フチあり）」から選ぶことができます。



2 ネット・アプリからいつでもどこでも注文できる

当店の年賀状は店頭または、ネット・アプリからも注文できます。写真を入れた仕上がりも画面で見ることがあるので安心です。宛名印刷も便利でお得なので、絵柄と一緒に注文をオススメします。受け取りは店頭または宅配から選ぶことができるのでお忙しい方はぜひネット・アプリ注文をご利用ください。



宛名も絵柄も早めの注文がお得!



宛名印刷



絵柄印刷

早割
宛名も絵柄も
—12/4水まで—
通常価格より
10%OFF

※宛名印刷の注文には住所録データが必要です ※10月23日、受付開始となります

宛名同時印刷 ネット・アプリがお得!
12/4水まで
通常価格より
20%OFF
※早割との併用はできません
ここをチェック!



詳しいご案内、お近くの店舗は **カメラのキタムラ** で検索してください

カメラのキタムラお客さま年賀状相談室

050-3066-7081

受付時間 10:00~19:00
(年末・年始を除く)

Happy with photos.



You Never Know /イノベーターズ
 YNKs交遊録
 マドモアゼル・ユリアとよりみちアート
 粋なおとなの嗜み塾
 YNKsみんなぞく採集
 on the YNKs
 YNKsワンダーツアーズ
 タイムトラベルガイド
 YNKs PLAYLIST
 YNKsごはんとおやつのネタ帳
 YNKs掲示板

連載一覽

#YNKsみんなぞく採集

「東京駅を通り過ぎる人々」
 「次は、東京、東京」
 到着駅を告げる車掌のアナウンスに、私は何やら今しがた上京してきたかのような感慨を覚えた。上京して10年弱、東京駅には年何回かは降りるし通過することもあるのだから聞き慣れていないわけではないのだが、「東京駅を観察する」という目的を持って改

めて訪れることで感覚が研ぎ澄まされるのか、「東京」という地名が今一度甘美な響きを持つて私の耳をくすぐるのである。
 八重洲・日本橋・京橋エリアの街や人々を観察していくこの連載。第1回のテーマである「東京駅を通り過ぎる人々」を探るため、11月上旬のある日の朝9時半、私は八重洲口改札を出た。



ナビゲーター
 絶対に終電を逃さない女 (文筆家)

八重洲(Y)・日本橋(N)・京橋(K)とその周辺(s)の魅力を発信するカルチャーメディア「YNKs」。読み方は「インクス」。本号から同じエリアのメディアとしてリニューアルした私たちにとっては、先輩!そして仲間のような存在です。“ナビゲーター”と称された多様なジャンルのクリエイター・アーティストたちによって綴られていく、このまちの魅力。その表現方法は写真、イラスト、エッセイ、音楽…、と本当にジャンルレス。ここでは数ある連載の中からHave a nice PHOTO!が選んだ5つを紹介します!

#粋なおとなの嗜み塾

多くの人が子どもの頃に授業や習い事で体験している身近な伝統文化「書道」。おとなになってから何かを習うのに、過去に経験したことがあるというのは大きな心のアドバンテージ、しかし改めて体験してみると「文字が上手になる」以外の書道の素晴らしい効果を実感!

湯浅先生は大東文化大学で書道を学び、高校の非常勤講師として書道を教えていたそう。そんなある日、京都の「松本松栄堂」が日本橋に支店を作る際に声がかかり、画廊のスタッフに。のちに書道教室の講師も任されることになりました。画廊の仕事では、“賛”と呼ばれる詩や歌が添えられた絵画や書の作品について、その内容や書の魅力を伝えることができるのでお客様に喜んでいただけているらしい。さて、若冲の庭にいたであろう鶏に見守られながらレッスン開始!



ナビゲーター
 佐々木千絵
 (イラストレーター)

クリエイターが紡ぐまちのカルチャー



#タイムトラベルガイド

須原屋を支えた
江戸市中のネットワーク

日本橋の通一丁目に大店を構え、江戸を代表する本屋となった須原屋。栖原垣内家から養子に入り、四代目となった須原屋茂兵衛（格齋）もまた、須原屋の経営を盤石にした人物とされる。前編で寛延3年（1750）に類板をめぐる南組と通町・中通組の抗争についてふれたが、その頃に格齋は家業を継いだとされている。

抗争では上方勢に負けるが、須原屋はその後めめげるところか、精力的に出版を行い、京都にも進出。攻めの姿勢を崩さずに、江戸で幅をきかせていた上方の本屋を凌駕していった。寛延年間（1748～1751）から宝暦年間（1751～1764）にかけて、江戸で



ナビゲーター
澁川祐子
(ライター/編集者)

www

の出版点数が大幅に増え、市場自体も拡大しているが、それだけでは急成長の説明が見つからない。好調だった理由は確定できないが、強気を貫いた背景の1つに、幅広い横のネットワークを持っていたことがあるのではないかと考える。

#on the YNKs



まちを歩き交う多様な人々をフォトグラファー・松尾修が切り取ります。



ナビゲーター
松尾修
(写真家)

#YNKs PLAYLIST

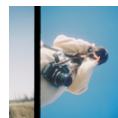
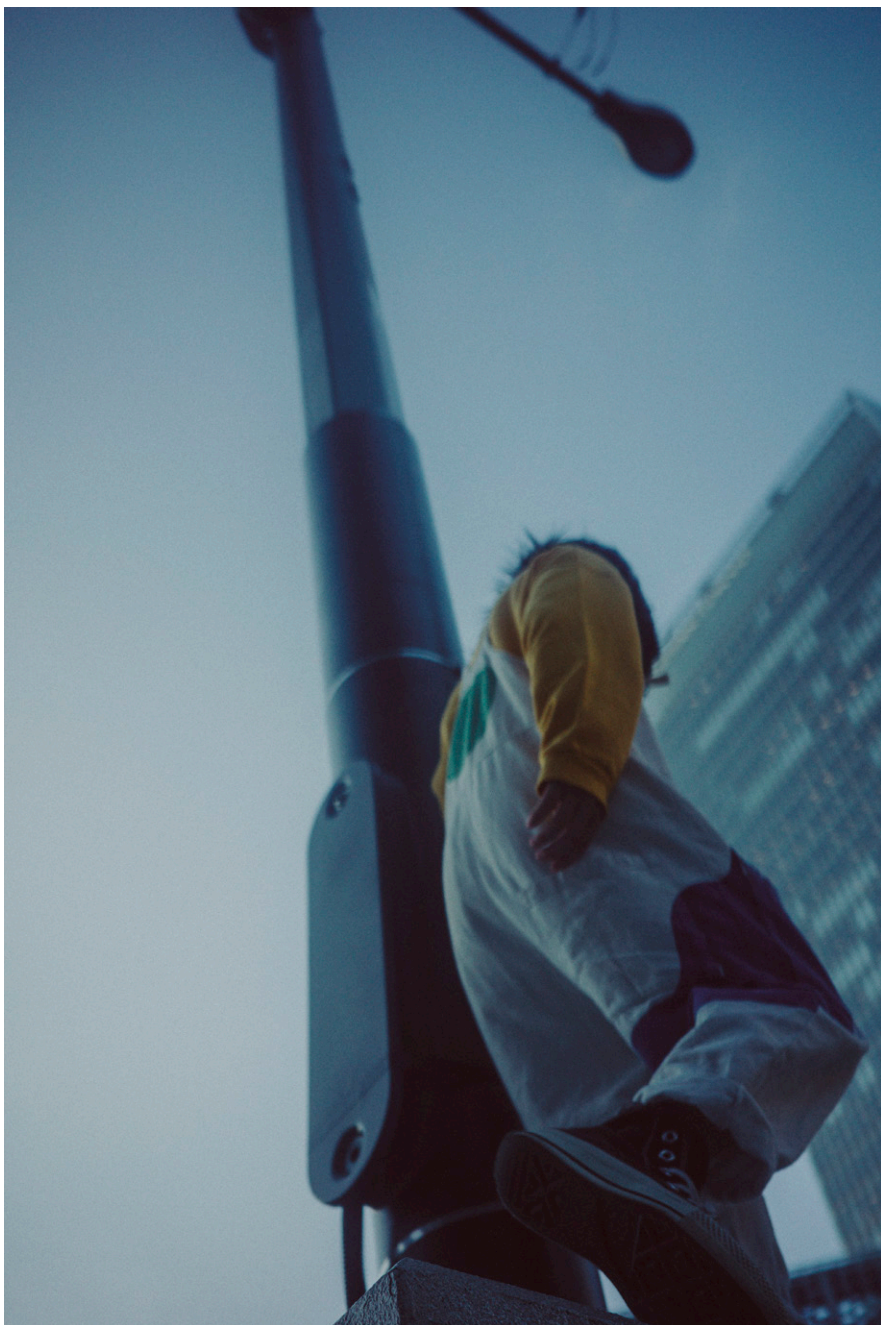
Fairground Attraction
What's Wrong with the World?
(2024)



ナビゲーター
高橋芳朗
(音楽ジャーナリスト/
ラジオパーソナリティ/
選曲家)



<https://ynks.jp>



増田彩来

ますださら／2001年、東京都生まれ。16歳から写真家として活動。企業広告、雑誌、映画スチール、CDジャケットなどで活躍。映像作家として8mm作品も手掛けており、短編映画『カフネの祈り』などを発表。









リル・ツアー

with RICOH GR

増田
彩来



変わりゆくまちで見つけた 小さな輝き

京橋、八重洲、日本橋の順に回ってみると、それぞれのまちに流れる空気の違いに驚いた。再開発が進む京橋では、工事のおかげで遠くのビル姿が見えたり、気持ちのいい空気が広がった。この景色は、今しか撮れない“現在進行形の風景”だと感じた。

東京駅を中心に人々が活発に動いている八重洲では、人や自動車が忙しなく通り過ぎ、電車が行き交う。光が絶え間なく動いていくまちの様子が、私の目には美しく映った。

日本橋の下を流れる川に、夕方の光が差し込みキラキラと揺れる水面。

ゆっくりと流れる時間が東京の中心で感じられてうれしかった。まちによって建物の雰囲気も、光の入り方も、目につく場所や魅力も、それぞれ異なる表情を見せてくれたこの撮影は、心を踊らせ、新しい発見に満ちていた。

今回の撮影では、エイトという8歳の男の子と一緒にまちを歩いた。年齢は離れていても私にとって親友のような存在で、彼と一緒に過ごす時間がとても好きだ。彼の目に映る世界や感じ方は私にはない“なにか”があって、それがとても新鮮で、うらやましくもある。写真を撮ることとエイトとの時間が自然に重なり合っていて、この作品が生まれたと感じている。

普段はフィルムカメラで撮影しているが、今回使用した「RICOH GR IIIx HDF」はコンパクトさのおかげで、私の手にすぐになじんでくれた。フィルムでもデジタルでも、撮りたいと思った瞬間からシャッターまでの早さは大事にしているので、GRはコンパクトで、画面を見てサッとシャッターを切れるので、直感的に瞬間を捉えることができた。その直感を選ぶカメラによって、どの瞬間に出合えるのかも変化するので、それも写真のおもしろさの一つだと再認識した。これからも自分なりの視点で、日常の中にある美しさや瞬間を、写真を通して見つけていきたいと思う。

Have a nice PHOTO!

このまちを
もっと好きになる。

vol.

50

RENEWAL!!!

八重洲・日本橋・京橋

アートに出会う
トキヨーさんぽ

